

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
E1421025	音楽史 (Music History)						対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
選択	2	4	教育学部	前学期	木1	日本語		単独					
担当教員	氏名 松田 聡 E-mail matsat@oita-u.ac.jp 内線 7616												
授業の概要	西洋のいわゆる芸術音楽の歴史を中世から20世紀までたどり、中高の音楽の教科書に掲載されるような代表的な作曲家の基本的な説明を行う。また、基礎的な作品研究の実際を示すため、各回に1つ、具体的に作品を取り上げ、その音楽的特徴や歴史的な位置づけを論じる。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7
目標1	西洋音楽史の大きな流れを説明できる。												
目標2	西洋音楽史上の代表的作曲家にかんする基本的な事柄を挙げることができる。												
目標3	音楽作品の基礎的な研究方法を説明することができる。												
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							10						
授業の内容													
1	授業ガイダンス												
2	中世・ルネサンスの音楽												
3	バロックの音楽(1): イタリア・フランス												
4	同(2): ドイツ・イギリス												
5	古典派の音楽												
6	古典派から初期ロマン派へ												
7	ロマン派(1): 1830~60年 : フランス・イタリア												
8	同(2): 同 : ドイツ												
9	同(3): 1860~90年 : ドイツ・イタリア												
10	同(4): 同 : フランス・その他												
11	近現代の音楽(1): 1890~1910年												
12	同(2): 1910~20年 : ドイツ等												
13	同(3): 同 : フランス等												
14	20世紀の音楽(1): 西ヨーロッパ												
15	同(2): ロシア(ソ連)等、及びまとめ												
ラーニング	A:知識の定着・確認	ワークシート等の記入を通じて、授業の理解度を確認する。					工夫	映像・録音資料を通じた音楽鑑賞を多く取り入れる。					
	B:意見の表現・交換						夫						
	C:応用志向						他						
	D:知識の活用・創造						の						
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	次回で取り上げる時代の音楽について、自身の知識を確認しておくこと(20h)。											
	事後学修	授業で取り上げた音楽作品を自主的に鑑賞し、理解を深めること(25h)。											
	想定時間合計	45											
教科書	教科書は指定せず、資料を配付する。												
参考書	授業中に適宜、指示する。												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標	目標	目標	目標	目標	目標	目標	目標	目標	目標
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	授業への参加度	40%										
	期末試験	60%										
	全授業回の3分の1以上を欠席した場合や試験が未受験だった場合は単位を認めない。											
注意事項	初回到授業についての基本的な説明をするので、受講予定者は必ず出席すること。											
備考	なし。											
リンク												
	URL											